

2022 年度活動助成 活動実績報告書

団体名	けいな 虹の会
活動テーマ	スタッフ研修会 講師 高木慶子先生 会場 六甲カトリック教会



2020年4月に「けいな虹の会」を設立して、はや3年近くがたとうとしています。上智大学グリーンケア研究所で「グリーンケア」について学んだものを遺族会の活動の場で生かしているのだろうか、また遺族会を運営していく中で、どのように遺族会を運営していけばいいのだろうか、遺族会のあり方とはどのようなものなのだろうか、遺族の方は遺族会に何を求めておられるのか、遺族の方に来ていただくためにはどのようにしたらよいのだろうか等々、悩むことも増えてきました。長きにわたって遺族会を運営してこられた高木先生から「けいな虹の会」を運営していくスタッフに向けて講演していただきたいとお願いし、3月5日にスタッフ研修会を実施しました。遺族の方と接する私たちの人間力、高木先生が提唱されている「全人力」を高めるためにはどうすればいいのかなども絡めてお話いただきました。

高木先生が話される一言一言が深く、内省のきっかけにもなりました。話されたことを日々の生活の中で反芻しながら、毎日のケアの中に私たちの生活があるということを感じ取っていきたいと思います。

2022 年度活動助成 活動実績報告書

団体名	けいな 虹の会
活動テーマ	講演会「現代社会におけるグリーフケアの必要性—さまざまな悲嘆に寄り添う—」 講師 高木慶子先生 会場 奈良北部会館



「けいな虹の会」は、上智大学グリーフケア研究所で研修を受けたスタッフたちが、ご家族・ご友人など大切な人を亡くされた方の気持ちをきちんと受け取り、安心してお話していただける場所として、2020年4月に遺族会を設立し、運営しています。大切な人を亡くした方の「悲嘆(グリーフ)」は、周囲の方々になかなか理解されないことも少なくありません。その無理解が悲嘆の最中におられる方を二重に苦しめることがないように「グリーフケア」の大切さを地域の方々に広める活動にも取り組んでいます。その取り組みの第一歩として9月25日に私たちの恩師でもある高木先生に「現代社会におけるグリーフケアの必要性—さまざまな悲嘆に寄り添う—」をテーマに講演していただきました。奈良や京都、大阪、兵庫などから100名ほどの方が参加してください、講演後のアンケートではさまざまなご意見やご感想をいただきました。「グリーフケアということばを初めて知った」「グリーフケアの大切さを再認識した」「出会った方、全ての方に思いやり、信頼、尊敬を持つことを日々心に留めておきたい」等々。悲嘆を抱えておられる方たちへの理解が地域の中で広がっていくことに喜びを感じ、また、人はさまざまな悲嘆(グリーフ)を抱えて生きているんだということを改めて感じた一日でした。